

平成16年度 長崎大学2次試験前期日程(数学問題)

平成16年2月25日

- 教育学部は, [2] ~ [5] 数II・III・B(120分)
- 工学部は, [2], [4], [5], [6] 数II・III・B(120分)
- 経済・水産・環境科学部は, [3], [4] 数II・B(80分)
- 医学部は, [2], [3], [5] 数II・III・B(100分)
- 歯・薬学部は, [1], [2], [6] 数II・III(100分)

1 a を実数とし, 3次方程式 $4x^3 - 3x - a = 0$ が3つの異なる実数解をもつとする. 次の問いに答えよ.

- (1) a はどのような範囲にあるか.
- (2) 3つの解はいずれも -1 と 1 の間にあることを示せ.
- (3) 三角関数の加法定理および2倍角の公式を用いて, 3倍角の公式 $\cos 3\theta = 4\cos^3\theta - 3\cos\theta$ を導け.
- (4) 上の方程式の3つの解のうち, 最も大きなものを $\cos\theta$ ($0^\circ < \theta < 180^\circ$) と表す. このとき, 残りの2つの解は $\cos(\theta + 120^\circ)$ と $\cos(\theta - 120^\circ)$ であることを示し, それらの大小を調べよ.

2 n を自然数とするとき, 放物線 $y = x^2 \cdots$ ① と直線 $y = x + n(n-1) \cdots$ ② で囲まれた領域を D_n で表す. ただし D_n は境界も含むものとする. D_n の点 (x, y) で x, y がともに整数となる点の個数を a_n とおく. 次の問いに答えよ.

- (1) ① と ② の交点の座標を求めよ.
- (2) $a_1, a_2, a_3 - a_2$ を求めよ.
- (3) $a_{n+1} - a_n$ を n の式で表せ.

3 関数 $f(x) = x^3 + 3x^2 \cos\theta + x \sin^2\theta + 2$ は極大値, 極小値をもつとする. ここで θ の範囲は $-90^\circ \leq \theta \leq 90^\circ$ とする. 次の問いに答えよ.

- (1) θ の値の範囲を求めよ.
- (2) 関数 $f(x)$ の極大値, 極小値に対応する $y = f(x)$ のグラフ上の2点を通る直線の傾きを m とおく. m を θ の関数として表せ.
- (3) 傾き m のとりうる値の範囲を求めよ.

4 方程式 $4x^3 + (12 - 2a)x^2 + (9 - 6a)x + 27 = 0$ は1つの実数解と2つの虚数解をもつ。ただし a は実数の定数とする。次の問いに答えよ。

- (1) この方程式の左辺は $x + 3$ を因数にもつことを示し、実数解と a の値の範囲を求めよ。
- (2) 2つの虚数解を $r(\cos \theta \pm \sin \theta)$ ($r > 0, 0^\circ < \theta < 180^\circ$) と表す。 r を求め、 $\cos \theta, \sin \theta$ を a で表せ。
- (3) 複素数平面内で3つの解の表す点が正三角形をなすとする。 θ と a の値を求めよ。

5 xy -平面において、直角双曲線 $C: y = \frac{1}{x}$ と直線 $l: x + y = k$ を考え、 C と l の2つの交点を A, B とする。ここで k は2より大きな定数である。次の問いに答えよ。

- (1) 点 A, B の x 座標をそれぞれ α, β ($\alpha < \beta$) とする。点 A における曲線 C の法線の方程式を、 α を用いて表せ。
- (2) 2点 A, B において、曲線 C に接する円の中心の座標と半径を、 k を用いて表せ。
- (3) 曲線 C と直線 l で囲まれた部分の面積を、 k を用いて表せ。

6 2以上の自然数 n に対して、関数 $f(x) = \log x - \sqrt[n]{x}$ を考える。次の問いに答えよ。

- (1) $xf'(x), x^2f''(x)$ を求めよ。
- (2) $x > 0$ において、 $f'(x) > 0$ なる x の範囲および $f''(x) < 0$ なる x の範囲をそれぞれ求めよ。
- (3) 関数 $f(x)$ の増減、曲線 $y = f(x)$ の凹凸を調べ、関数 $f(x)$ の極大値と曲線 $y = f(x)$ の変曲点がそれぞれ1つずつあることを示せ。
- (4) 上問(3)の極大値を与える x の値を a_n 、変曲点の x 座標を b_n とするとき、極限值 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{b_n}{a_n}$ を求めよ。なお $\lim_{h \rightarrow 0} (1 + h)^{1/h} = e$ (自然対数の底) であることは用いてよい。

正解

- 1 (1) 関数 $y = 4x^3 - 3x$ について

$$\begin{aligned} y' &= 12x^2 - 3 \\ &= 3(2x + 1)(2x - 1) \end{aligned}$$

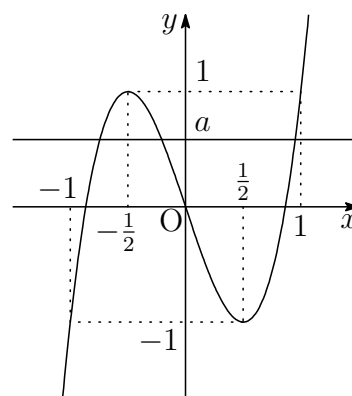
y の増減表は右のようになる.

よって, $y = 4x^3 - 3x$ のグラフは, 右の図のようになる.

求める a の値の範囲は, このグラフと直線 $y = a$ が異なる 3 個の共有点をもつ範囲であるから

$$-1 < a < 1$$

x	...	$-\frac{1}{2}$...	$\frac{1}{2}$...
y'	+	0	-	0	+
y	↗	1	↘	-1	↗



- (2) 方程式 $4x^3 - 3x - a = 0$ の解は, $y = 4x^3 - 3x$ のグラフと直線 $y = a$ の共有点の x 座標であるから, $-1 < a < 1$ のとき, (1) の図から, 3 つの解はいずれも -1 と 1 の間にある.

$$\begin{aligned} (3) \quad \cos 3\theta &= \cos(2\theta + \theta) = \cos 2\theta \cos \theta - \sin 2\theta \sin \theta \\ &= (2 \cos^2 \theta - 1) \cos \theta - 2 \sin \theta \cos \theta \sin \theta \\ &= 2 \cos^3 \theta - \cos \theta - 2 \sin^2 \theta \cos \theta \\ &= 2 \cos^3 \theta - \cos \theta - 2(1 - \cos^2 \theta) \cos \theta \\ &= 4 \cos^3 \theta - 3 \cos \theta \end{aligned}$$

$$(4) \cos \theta \text{ は, } 4x^3 - 3x - a = 0 \text{ の解であるから } 4 \cos^3 \theta - 3 \cos \theta - a = 0$$

$$(3) \text{ の結果から } \cos 3\theta - a = 0$$

$$\text{上式から } \cos(3\theta \pm 360^\circ) - a = 0 \quad \text{ゆえに} \quad \cos 3(\theta \pm 120^\circ) - a = 0$$

$$\text{したがって} \quad 4 \cos^3(\theta \pm 120^\circ) - 3 \cos(\theta \pm 120^\circ) - a = 0$$

よって, $\cos(\theta \pm 120^\circ)$ は, 3 次方程式 $4x^3 - 3x - a = 0$ の解である.

最も大きい解 $\cos \theta$ は, (1) の図から $\frac{1}{2} < \cos \theta < 1$

$0^\circ < \theta < 180^\circ$ より, $60^\circ < \theta < 90^\circ$ であるから

$$\begin{aligned} &\cos(\theta - 120^\circ) - \cos(\theta + 120^\circ) \\ &= \cos \theta \cos 120^\circ + \sin \theta \sin 120^\circ - (\cos \theta \cos 120^\circ - \sin \theta \sin 120^\circ) \\ &= 2 \sin \theta \sin 120^\circ = \sqrt{3} \sin \theta > 0 \end{aligned}$$

よって $\cos(\theta - 120^\circ) > \cos(\theta + 120^\circ)$

- 2 (1) $y = x^2$ と $y = x + n(n-1)$ から y を消去すると

$$x^2 = x + n(n-1) \quad \text{ゆえに} \quad (x+n-1)(x-n) = 0$$

求める交点の座標は $(-n+1, (n-1)^2), (n, n^2)$

- (2) $n=1$ のとき, ②は $y=x$

このとき, D_n 内の格子点は

$$(0, 0), (1, 1)$$

よって $a_1 = 2$

- $n=2$ のとき, ②は $y=x$

このとき, D_n 内の格子点は

$$(-1, 1), (0, 0), (0, 1), (0, 2),$$

$$(1, 1), (1, 2), (1, 3), (2, 4)$$

よって $a_2 = 8$

- $n=3$ のとき, 直線②は $y=x+6$

$a_3 - a_2$ の個数は, $y = x^2$ と $y = x + 6$ の2つの交点 $(-2, 4), (3, 9)$ および領域

$$-1 \leq x \leq 2, \quad x+2 < y \leq x+6$$

内の格子点の個数であるから

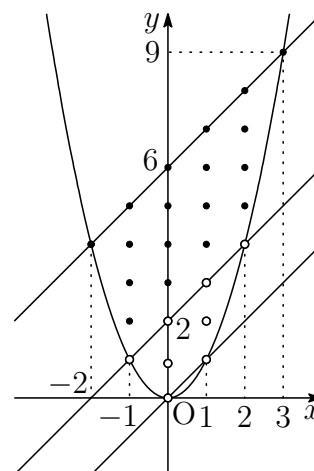
$$a_3 - a_2 = 2 + 4 \times 4 = 18$$

- (3) $a_{n+1} - a_n$ の個数は, $y = x^2$ と $y = x + (n+1)n$ の2つの交点 $(-n, n^2), (n+1, (n+1)^2)$ および領域

$$-n+1 \leq x \leq n, \quad x+n(n-1) < y \leq x+(n+1)n$$

内の格子点の個数であるから

$$a_{n+1} - a_n = 2 + 2n \times 2n = 4n^2 + 2$$



3 (1) $f(x) = x^3 + 3x^2 \cos \theta + x \sin^2 \theta + 2$ より

$$f'(x) = 3x^2 + 6x \cos \theta + \sin^2 \theta$$

$f(x)$ が極大値・極小値をもつのは、 $f'(x) = 0$ が異なる 2 つの実数解をもつときであるから、 $D/4 > 0$ より

$$(3 \cos \theta)^2 - 3 \sin^2 \theta > 0$$

$$3(1 - \sin^2 \theta) - \sin^2 \theta > 0$$

$$4 \sin^2 \theta - 3 < 0$$

$$(2 \sin \theta + \sqrt{3})(2 \sin \theta - \sqrt{3}) < 0$$

$$-\frac{\sqrt{3}}{2} < \sin \theta < \frac{\sqrt{3}}{2}$$

$$-90^\circ < \theta < 90^\circ \text{ より } \quad -60^\circ < \theta < 60^\circ$$

(2) $f(x)$ を $f'(x)$ で割ると

$$f(x) = \left(\frac{1}{3}x + \frac{1}{3} \cos \theta \right) f'(x) + \frac{2}{3}(4 \sin^2 \theta - 3)x + 2 - \frac{1}{3} \sin^2 \theta \cos \theta$$

$f(x)$ の極大値・極小値に対応するグラフ上の 2 点を通る直線の方程式は

$$y = \frac{2}{3}(4 \sin^2 \theta - 3)x + 2 - \frac{1}{3} \sin^2 \theta \cos \theta$$

よって、この直線の傾き m は

$$m = \frac{2}{3}(4 \sin^2 \theta - 3)$$

(3) (1), (2) の結果から、 m のとりうる値の範囲は

$$-2 \leq m < 0$$

4 (1) $P(x) = 4x^3 + (12 - 2a)x^2 + (9 - 6a)x + 27$ とおくと

$$P(-3) = 4(-3)^3 + (12 - 2a)(-3)^2 + (9 - 6a)(-3) + 27 = 0$$

ゆえに, $P(x) = 0$ は -3 を実数解にもち

$$P(x) = (x + 3)(4x^2 - 2ax + 9)$$

となる. したがって, $4x^2 - 2ax + 9 = 0 \cdots (*)$ の解が $P(x) = 0$ の虚数解である. 2次方程式 $(*)$ の判別式 D について $D/4 < 0$ であるから

$$(-a)^2 - 4 \cdot 9 < 0 \quad \text{よって} \quad -6 < a < 6$$

(2) 2次方程式 $(*)$ の2つの虚数解が $r(\cos \theta + i \sin \theta)$, $r(\cos \theta - i \sin \theta)$ であるから ($r > 0$, $0^\circ < \theta < 180^\circ$), 解と係数の関係により

$$\begin{aligned} r(\cos \theta + i \sin \theta) + r(\cos \theta - i \sin \theta) &= -\frac{-2a}{4} \\ r(\cos \theta + i \sin \theta) \cdot r(\cos \theta - i \sin \theta) &= \frac{9}{4} \end{aligned}$$

整理すると $r \cos \theta = \frac{a}{4}$, $r^2 = \frac{9}{4}$ ゆえに $r = \frac{3}{2}$, $\cos \theta = \frac{a}{6}$
 $0^\circ < \theta < 180^\circ$ より $\sin \theta > 0$ であるから

$$\sin \theta = \sqrt{1 - \cos^2 \theta} = \sqrt{1 - \left(\frac{a}{6}\right)^2} = \frac{\sqrt{36 - a^2}}{6}$$

(3) 3つの解を $\alpha = \frac{3}{2}(\cos \theta + i \sin \theta)$, $\beta = \frac{3}{2}(\cos \theta - i \sin \theta)$, $\gamma = -3$ とおく.
 このとき, $-3 < \frac{3}{2} \cos \theta$ に注意すると

$$\begin{aligned} (\alpha - \beta)(\cos 60^\circ + i \sin 60^\circ) &= \gamma - \beta \\ 3i \sin \theta \left(\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i \right) &= -3 - \frac{3}{2}(\cos \theta - i \sin \theta) \\ -\frac{3\sqrt{3}}{2} \sin \theta + \frac{3}{2}i \sin \theta &= -3 - \frac{3}{2} \cos \theta + \frac{3}{2}i \sin \theta \end{aligned}$$

したがって $-\frac{3\sqrt{3}}{2} \sin \theta = -3 - \frac{3}{2} \cos \theta$ 整理すると $\sqrt{3} \sin \theta - \cos \theta = 2$

ゆえに $2 \sin(\theta - 30^\circ) = 2$ $0 < \theta < 180^\circ$ により $\theta = 120^\circ$

(2) の結果 $\cos \theta = \frac{a}{6}$ より $a = 6 \cos 120^\circ = -3$

5 (1) $y = \frac{1}{x}$ より, $y' = -\frac{1}{x^2}$ であるから, $x = \alpha$ のとき $-\frac{1}{y'} = \alpha^2$

したがって, C 上の点 $\left(\alpha, \frac{1}{\alpha}\right)$ における法線の方程式は

$$y - \frac{1}{\alpha} = \alpha^2(x - \alpha) \quad \text{すなわち} \quad y = \alpha^2 x - \alpha^3 + \frac{1}{\alpha}$$

(2) $y = \frac{1}{x}$ と $x + y = k$ から, y を消去すると

$$\frac{1}{x} = k - x \quad \text{すなわち} \quad x^2 - kx + 1 = 0$$

上の方程式の解が α, β ($\alpha < \beta$) であるから, 解と係数の関係により

$$\alpha + \beta = k, \quad \alpha\beta = 1, \quad \beta - \alpha = \sqrt{(\alpha + \beta)^2 - 4\alpha\beta} = \sqrt{k^2 - 4}$$

(1) の結果から C の 2 点 A, B におけるそれぞれの法線の方程式は

$$y = \alpha^2 x - \alpha^3 + \beta \cdots \textcircled{1}, \quad y = \beta^2 x - \beta^3 + \alpha \cdots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1} - \textcircled{2} \text{ より } (\alpha^2 - \beta^2)x - (\alpha^3 - \beta^3) - (\alpha - \beta) = 0$$

$$\text{したがって } (\alpha + \beta)x = \alpha^2 + \alpha\beta + \beta^2 + 1$$

$$kx = (\alpha + \beta)^2 - \alpha\beta + 1$$

$$kx = k^2 - 1 + 1$$

$$x = k$$

これを $\textcircled{1}$, $\textcircled{2}$ に代入して, 辺々を加えると

$$\begin{aligned} 2y &= (\alpha^2 + \beta^2)k - (\alpha^3 + \beta^3) + \alpha + \beta \\ &= \{(\alpha + \beta)^2 - 2\alpha\beta\}k - (\alpha + \beta)^3 + 3\alpha\beta(\alpha + \beta) + k \\ &= (k^2 - 2)k - k^3 + 3 \cdot 1 \cdot k + k = 2k \end{aligned}$$

したがって, 求める円の中心は (k, k)

また, 点 (k, k) と点 (α, β) の距離を r とすると $\left(\beta = \frac{1}{\alpha}\right)$

$$\begin{aligned} r^2 &= (\alpha - k)^2 + (\beta - k)^2 \\ &= \alpha^2 + \beta^2 - 2k(\alpha + \beta) + 2k^2 \\ &= (\alpha + \beta)^2 - 2\alpha\beta - 2k \cdot k + 2k^2 \\ &= k^2 - 2 \end{aligned}$$

よって, 求める円の半径は $\sqrt{k^2 - 2}$

(3) 求める面積を S とすると

$$\begin{aligned}
 S &= \int_{\alpha}^{\beta} \left(-x + k - \frac{1}{x} \right) dx \\
 &= \left[-\frac{1}{2}x^2 + kx - \log x \right]_{\alpha}^{\beta} \\
 &= -\frac{1}{2}(\beta^2 - \alpha^2) + k(\beta - \alpha) - \log \frac{\beta}{\alpha} \\
 &= \left\{ -\frac{1}{2}(\alpha + \beta) + k \right\} (\beta - \alpha) - \log \frac{\beta^2}{\alpha\beta} \\
 &= \frac{k}{2}\sqrt{k^2 - 4} - 2 \log \beta
 \end{aligned}$$

ここで $\beta = \frac{(\alpha + \beta) + (\beta - \alpha)}{2} = \frac{k + \sqrt{k^2 - 4}}{2}$

よって $S = \frac{k}{2}\sqrt{k^2 - 4} - 2 \log \frac{k + \sqrt{k^2 - 4}}{2}$

6 (1) $f(x) = \log x - \sqrt[n]{x} = \log x - x^{\frac{1}{n}}$ より

$$\begin{aligned}
 f'(x) &= \frac{1}{x} - \frac{1}{n}x^{\frac{1}{n}-1} \\
 f''(x) &= -\frac{1}{x^2} - \frac{1}{n} \left(\frac{1}{n} - 1 \right) x^{\frac{1}{n}-2}
 \end{aligned}$$

よって $xf'(x) = 1 - \frac{\sqrt[n]{x}}{n}$,

$$x^2f''(x) = -1 + \frac{n-1}{n^2}\sqrt[n]{x}$$

(2) $x > 0$ において $f'(x) > 0$ となる x の範囲は, (1) の結果から

$$1 - \frac{\sqrt[n]{x}}{n} > 0 \quad \text{すなわち} \quad 0 < x < n^n$$

$x > 0$ において $f''(x) < 0$ となる x の範囲は, (1) の結果から

$$-1 + \frac{n-1}{n^2}\sqrt[n]{x} < 0 \quad \text{すなわち} \quad 0 < x < \left(\frac{n^2}{n-1} \right)^n$$

$$(3) \quad n = \frac{n^2}{n} < \frac{n^2}{n-1} \text{ より } n^n < \left(\frac{n^2}{n-1}\right)^n$$

したがって、増減表は次のようになる。

x	(0)	...	n^n	...	$\left(\frac{n^2}{n-1}\right)^n$...
y'		+	0	-	-	-
y''		-	-	-	0	+
y		↗	極大	↘	$f\left(\left(\frac{n^2}{n-1}\right)^n\right)$	↘

よって $x = n^n$ のとき極大値 $n(\log n - 1)$

$$\text{変曲点} \left(\left(\frac{n^2}{n-1}\right)^n, n \log \frac{n^2}{n-1} - \frac{n^2}{n-1} \right)$$

(4) (3) の結果から、 $a_n = n^n$, $b_n = \left(\frac{n^2}{n-1}\right)^n$ であるから

$$\begin{aligned} \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{b_n}{a_n} &= \lim_{n \rightarrow \infty} \left(\frac{n^2}{n-1}\right)^n \frac{1}{n^n} \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \left(\frac{n}{n-1}\right)^n = \lim_{n \rightarrow \infty} \left(1 + \frac{1}{n-1}\right)^n \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \left(1 + \frac{1}{n-1}\right)^{n-1} \left(1 + \frac{1}{n-1}\right) \\ &= e \cdot 1 = e \end{aligned}$$